



公益財団法人 日本対がん協会 「日本対がん協会」と「対がん協会」は登録商標です  
〒100-0006 東京都千代田区有楽町2-5-1 有楽町センタービル(マリオン)13F  
☎(03) 5218-4771 <http://www.jcancer.jp/>

**主な内容**

- 3面 がん教育 文科省がモデル授業
- 4面 エビデンスをいかした受診率向上を考える
- 5面 がん検診実施状況 確定版

## 多様なニーズに的確に対応できる組織に

### リレー・フォー・ライフ ピンクリボン がん検診……活動支える基盤の拡充めざし3年計画

#### 今年度事業計画・予算／日本対がん協会

日本対がん協会(垣添忠生会長)は3月11日に理事会を開き、2014年度の実業計画と予算を決定した。広がるリレー・フォー・ライフ、国・自治体をあげて向上を目指すがん検診受診率、拡充が求められるがん患者・家族支援……年々期待と責任が強まる対がん活動の一角を担う組織としての基盤を確立するため、組織のあり方を見直して活性化を図り、16年度までの3年計画で寄付の増大を図る(2面に関連記事)。

14年度の予算は経常収

益が6億2897万円で、経常費用は6億1611万円。

収益の中で対がん協会の様々な活動の資金となる寄付については4億3000万円を見込んだ(12年度実績比7%増)。3年計画では、この寄付を15年度は4億6000万円(同15%増)に、16年度には5億円(同20%増)を目標に掲げた。

13年度の寄付は4億4400万円と、14年度の見込みを上回るが、これは大口の寄付があったため。これを除くと4億円を割り込むことから、日ごろの寄付

の募集活動に力を入れる。

組織のあり方を見直すのは、この寄付募集に各担当を挙げて取り組むためだ。

これまで寄付活動を担ってきた企画事業チームを中心に、ピンクリボンチーム、リレー・フォー・ライフチームなど、関係部門による連絡会を設置。各部門の取り組みを提示しながらディスカッションを重ね、より効果的な啓発やイベントを検討する。

対がん協会がこれまでに積み上げてきたネットワークやがん啓発イベントを通

じたり、税制面などの制度を有効的に活用することを提案したりして寄付を呼びかける。

組織面の見直しに加え、がん教育や小児がん啓発など、さまざま活動に機動的に対応するため、縦割りではなく各部門を横断したチームを作り、それぞれの部門の人脈やアイデアなど、特徴を互いにかした活動を展開する。

また、「がん教育」などの事業について、その効果や達成度についての評価も実施する。

#### ◆主な新規事業◆

【フットサルリボン基金】 Fリーグと連携し、リーグ加盟の12チームの試合会場でがん啓発活動や募金活動を展開。全国のファンに向けた啓発と小児がん患者支援に役立てる。

【がんと診断された時からの相談支援】 厚生労働省からの委託。自治体が設けた「地域統括相談支援センター」の課題を洗い出し患者・家族が利用しやすくする手立てを考える。

【小児がん患者支援】 教育、進学、就職、結婚など小児がん患者・体験者が抱える課題に対する方策を検

討し、今年度は東日本大震災の被災地の小児がん患者・家族を支援する。

【婦人科がん患者支援】 妊娠・出産に影響する婦人科がんや小児がん患者に、卵巣や精子の凍結保存等の支援を検討する。社会、法律、倫理面の課題も大きいため幅広く考える。

【障がい者のがん対策】 障害者差別解消法の施行を見据え、国の助成金などを基に、情報が伝わらなかったり、検診・医療を受けられなかったりする障がい者対策を進める。

**がん相談ホットライン** 祝日を除く毎日  
03-3562-7830

日本対がん協会は、がんに関する不安、日々の生活での悩みなどの相談(無料、電話代は別)に、看護師や社会福祉士が電話で応じる「がん相談ホットライン」(☎03-3562-7830)を開設しています。祝日を除いて毎日午前10時から午後6時まで受け付けています。相談時間は1人20分まで。予約は不要です。

**医師による面接・電話相談(要予約)**  
予約専用 03-3562-8015

日本対がん協会は、専門医による面接相談および電話相談(ともに無料)を受け付けています。いずれも予約制で、予約・問い合わせは月曜から金曜の午前10時から午後5時までに☎03-3562-8015へ。相談の時間は電話が1人20分、面接は1人30分(診療ではありません)。詳しくはホームページ(<http://www.jcancer.jp/>)をご覧ください。

## ピンクリボンフェスティバルは東京・神戸・仙台・大阪で 50カ所開催めざすリレー・フォー・ライフ 子宮頸がん・大腸がん無料クーポン券発行……多彩な活動でがん征圧へ

日本対がん協会は、「がんに負けない社会」「がんになっても安心して暮らせる社会」づくりをめざし、グループ支部の協力を得ながら今年度も多彩な活動を各地で開催します。その活動を支えるため組織のあり方を見直し、基盤をより強固なものにするべく、寄付募集活動にも注力します。主な事業を紹介します。

### 【ピンクリボンフェスティバル】

14年度のテーマは「乳がんにも負けない。あなたの笑顔のために」。

乳がん月間の10月に東京と神戸でスマイルウオークとシンポジウムを、仙台でスマイルウオークを実施します。

東京でのスマイルウオークは今年度は六本木ヒルズ

アリーナに移し、共催のテレビ朝日と緊密な連携の下に進めます。

昨年11月に京都で初めて開いた「京都セミナー」を今年度は「関西セミナー」として大阪で開催します。

名古屋でのイベントは2013年度をもって終了します。

### 【リレー・フォー・ライフ】

今年度は50カ所での開催を目標にします。とくにまだ開催したことのない県での開催を働きかける方針です。

未開催県は16県。日本海側に集中しています。各支部と連携しつつ、リレー・フォー・ライフの意義を分かりやすく説明しながら普及を図ります。

2013年度の対がん協会への寄付額は前年度より1350万円増えて6850万円でした。各地の実行委員会の尽力により、経費を抑えてもらうなどの工夫を図ってもらった結果、寄せられた寄付総額のうち対がん協会への寄付率は53%と、前年度の48%を上回りました。

### 【ほほえみ基金】

独自に発行しているがん検診無料クーポン券を乳がん検診に加えて子宮頸がん

と大腸がんの検診にも拡大します。子宮頸がんは20代、30代の日本人女性に増えています。若い女性が検診を受けに行きやすいよう、友達や姉妹と一緒に受けられる

「ペアクーポン券」にします。

大腸がんは女性のがん死亡の1位で、対策の拡充が求められています。男性も増える傾向にあり、無料クーポン券は家族2人でそろって受けられるように「ファミリークーポン券(2人)」とします。

### 【子宮頸がん基金】

若いママが友達同士で子宮頸がん検診を受ける「ママ友検診」を拡大させます。

昨秋に北海道、宮城県、福岡県各支部の協力を得て実施したところママたちにも好評だったことから実施を積み重ねるとともに他の支部にも呼びかけることを検討しています。

女子大生たちの活動も普及し、札幌(リボンムーブメント北海道支部)では行政と一緒に啓発活動を行うことが決まりました。新潟でも行政側から働きかけがあります。

仙台や福岡のように、支部と連携した活動を広げていく考えです。

### 【禁煙基金】

小学生と保護者が一緒にたばこの害について学ぶ健康教室(朝日学生新聞社と共催)が好評で、今年度も2回開催する予定です(東

京と大阪)。

小学校の教員に参観を呼びかけ、「がん教育」の一環としての取り組みにしようと計画しています。

### 【がん教育基金】

中学校や高校をがん専門医が訪ねて出前授業を行ってきた「ドクタービジット」(朝日新聞社と共催)の実績を踏まえ、医療関係者だけでなく、がんサバイバーにも講師になってもらい、「いのち」について幅広く考える授業を、支部の協力を得ながら進める方針です。

文部科学省は今年度、がん教育のモデル授業を複数の学校で実施する予定です。

対がん協会も文科省の方針に沿う形で、教育学の専門家の意見を聞きながら効果的な授業を展開し、その効果についても評価する方法を検討します。

### 【世界の対がん組織と連携した国際活動】

世界の対がん運動を主導する国際対がん連合(UICC)の活動に協力し、UICCが定めた「世界対が

ンデー」の2月4日に、UICC日本委員会とともに、公開シンポジウムなどのイベントを開催します。

### 【助成(奨学制度)】

若手医師にがん専門病院で研鑽を積んでもらう奨学制度には毎年多くの応募がありました。近年は減少しています。医師へのヒアリングなどを実施し、応募が増えるように改善策を講

じる予定です。

米国のがん専門病院での研修では、テキサス大MDアンダーソンがんセンターに加え、シカゴ大学に派遣を受け入れてもらえるよう、交渉を進めます。



## がん教育／文科省も本格導入に向けモデル授業実施へ

がんサバイバーから体験を聞いたり、がん専門医にがんの原因や治療法などの講義を受けたり……児童や生徒を対象に「がん教育」が様々に試行される中、文部科学省の「がんの教育総合支援事業」が今年度スタートする。

がん教育の「モデル授業」を教育委員会が考えるのを文科省としてサポートしよ

うという取り組み。文科省は今年度1500万円の予算で十数カ所程度での実施を見込んでいる。

この事業は文科省が都道府県・政令指定都市の教育委員会に委託して実施する。内容については都道府県・政令指定都市が作成する「がんの教育に関する計画」に基づいて決める。計画の作成にあたって、教育

委員会は、学校保健指導主事や学校医、医師会、がん経験者、行政の福祉部門の関係者らによる「がん教育に関する協議会」を設置。計画作成を指導したり助言したりする。

文科省学校保健教育課では「がん教育の実施は学校が中心になるが、学校内に閉じこもるだけではなく、地域と一体となって取り組

んでほしい。内容や実施方法を縛ることはせず、いろいろ試行錯誤しながら地域の実情にあった方法を検討してほしい」と話す。

文科省は、この事業を単年度ごとながら何年間か続け、分析・評価し、指導要領の改訂につなげたい考えだ。近く、各地の取り組みを分析する委員会を省内に設けることにしている。

### がんを正しく理解

文部科学省が、公益財団法人日本学校保健会に設けた「がんの教育に関する検討委員会」(座長、植田誠治・聖心女子大学教授)は「いのちの大切さを育む、がん教育」という視点を基本とする報告書をまとめた。

がん教育の目標として報告書が掲げるのは、「がんに関して正しく理解できるようにする」ことと、「いのちの大切さについて考える態度を育成する」こと。がんについての情報をただ知識としてもつだけでなく、考えることの重要性をうたったのがポイントだ。

そのため欠かせないのが「正しい理解」。がん教育の必要性が強調されている。

具体的な内容として報告書が例示したのは――。

▽がんとは(発生要因)＝「がんとは体の中で異常な細胞が際限なく増えてしまう病気」など

▽疫学＝「生涯のうちがんになる可能性は、男性の58%、女性の43%(2008年)とされているが、年々

増え続けている」など

▽予防＝「たばこを吸わない、適度な運動、ワクチンを受ける」など

▽早期発見・検診＝「早期に発見するには検診を受けることが不可欠」など

▽治療(手術、放射線、抗がん剤)

▽緩和ケア

▽生活の質

▽共生＝「がんは誰もが

## いのちの大切さを考える態度を育成 がん教育の目標

文科省の検討委員会が報告

かかる可能性のある病期であり、がん患者への偏見を無くし、共に生きることが大切」など。

がん教育の実施に際しては「がんという専門性の高さに鑑みて、広く専門機関等との連携を進める必要がある」とし、外部講師の参加・協力を進めることなど、多様な指導方法の工夫を求めた。

小児がんの当事者だったり、体験者だったりした児童生徒がいる場合や、家族にがん患者がいるか、がん家族を亡くした経験のある児童生徒、クラスにがん患者や、がんの既往のある児童生徒がいる場合、さらには、小児がんや肝がんなど、生活習慣が主な原因とならないがんもあることなどへの配慮も求めている。

## 教材は？ 人材は？ 授業の効果への評価は？

がん教育を実施するにあたっての課題も少なくない。まず、小学校で教えるのか、中学校なのか、それとも高校か。発達段階に応じた教育内容をいかに組み立てるか、難しい。

現行の学習指導要領でも、小学校(5,6年)、中学校(3年)では、「喫煙と肺がん」に触れられ、高校では「悪性新生物」という言葉が用いられている。

しかし、いずれも生活習慣と様々な病気の関係の中で触れられている程度。高校になっても「検診」につい

てきちんとした形では説明されていない。

こうした現状を受け、まず適切な「教科書」がないことが課題の一つに挙げられる。教員自身も、がんについて学んだことのある人は少なく、がんについて教えることを前提に教員としての研修はなされていない場合がほとんどだ。

さらに「がん教育」の効果に関して、どのような教育をすれば、それが児童生徒の意識や行動の変化につながるのか、分析する手法がない。

文科省は、「授業」の前後で、児童生徒の理解度をアンケートしたり、教職員に対して授業の評価を記載してもらったりすることを考えている。その評価項目が適切なのかどうか、検証することも重要だ。

日本対がん協会では、各地の教育委員会や学校などの理解・協力を得ながら、さまざまな形のがん教育を進めつつ、その効果・影響の評価についても、どんな方法が適切なのか、専門家の意見を聞きながら検討する。

# 対象を絞ってアピール チラシにひと工夫を カギは「継続受診」にあり

受診率向上策を科学的に考えるセミナー／日本対がん協会が開催

無料クーポン券を配布しても、何度も啓発セミナーやイベントを開いても、がん検診受診率はなかなか上がらない。ところが、マーケティングの手法を取り入れて啓発方法を工夫すると向上した、という例も出てきた。そんな先進例に学ぼうと、日本対がん協会は支部に呼びかけ、啓発セミナーを3月20日、東京・有楽町で開いた。参加した16支部の25人は何を学んだのだろうか。

その名も「検診受診率を上げる！ 科学的アプローチによる先進事例を学ぶ」。すぐ実践できるような取り組みも紹介された。

講師は、株式会社キャンサーキャンの福吉潤社長。福吉さんは米ハーバード大経営大学院で学び、2008年に同大の社会貢献基金で同社を設立。がん啓発に行動科学の理論をいかし市民に行動変容を促す活動をしている。

セミナーは①無料クーポン券を配っても受診率が飛躍的に向上はなかったのはなぜか②受診行動にはどんな条件が必要か③受診率向上に関する世界のエビデンス④成功事例の紹介⑤検診機関として何ができるのか — の流れに沿って進められた。

参加者は5つのグループに分かれ、福吉さんへの質疑を交え、各グループで支部の取り組みを紹介したり、「何ができるか」を考えたりした。

福吉さんがまず示したのは、「新規」か、「既存」か、という課題。啓発の比重を、新規受診者の掘り起しか、受診経験のある人への繰り返し受診のどちらに置くか、という点だ。

＜顧客の構成割合を、買い物回数と売上への寄与度で比較。買い物回数が1回や2～3回の客が顧客数の4割を占めても、売上に占める割合は数%なのに対し、11回以上の客は、数では2割ほどでも売上の6割を占める＞

＜あるテーマパークでは新規の客が漸減しているのに入場者数は年々増えている＞

そんな例を示した福吉さんが力を入れたのが、「リピーター」対策だ。

がん検診の場合にその対策がとられていない例として、ある自治体での調査を示した。

＜2010年度に乳がん検診無料クーポン券で受診した3640人のうち2年後に受診したのは568人(15.6%)＞

福吉さんは「無料クーポン券で新規受診者が増えたのに、継続受診につなげていない」と指摘した。

こんな例も —

＜乳がん検診の案内で、約11000円かかる高価な検診に約10000円の補助が出るので1000円の自己負担で受けられる

ことをカラー(赤)で分かりやすく説明したチラシと、そんな説明のない従来のチラシの効果を比較。5年間未受診の人約1500人ずつの2グループに、それぞれのチラシで案内した結果、従来のものを配布したグループの受診者は1人で、工夫した方は131人だった＞

「文言」は、受け取った人が何をすればいいか、具体的に書くことが大切だと福吉さん。「自治体に問い合わせを」と記載する場合は「電話番号は忘れずに。『〇〇市の検診の予約をと伝えて下さい』といった文言も」という。

福吉さんは、がん検診の受診に重要なこととして、▽意識の向上(病気や検診の意義などの理解)▽障害の除去(費用、キャパシティなど)▽きっかけの提供(個別勧奨) — の3点を挙げ、こうアドバイスした。

「検診機関には受診者の記録がある。これを活用できるようにして勧奨すれ

ば、繰り返し受診の向上につながる」

◇

参加者に感想をアンケートで尋ねた(22人が回答)。

講義について「良かった」「まあまあ良かった」「普通」「あまり良くなかった」「良くなかった」の5段階で評価してもらった。「良かった」が21人で、「普通」が1人。

「違った目で考えることができた」「プラスアルファを学ぶことができ、参考になった」「コール・リコールのエビデンスが理解できた」「新規、既存、リピートなど、気が付いていなかった点がよく分かった」などの意見が寄せられた。

全体で2時間、10分程度のグループワークを数回挟んだセミナーだったが、「時間が短かった」のが「良くなかった」点として複数の人が挙げた。

「継続して開催を」という要望が多く、日本対がん協会は今年度中に2～3回開くことにしている。



受診率の向上策を科学的に考えよう — 啓発セミナーでは支部の関係者らが熱心にディスカッションを交わした = 3月20日、東京・有楽町



## 最終的に受診者は1108万8093人 2012年度がん検診実施状況確定

## 5つのがん検診では回復の兆しも 本格化にはさらなる工夫が必要

日本対がん協会は、がん検診を実施しているグループ支部の協力を得て、「2012年度がん検診の実施状況」の確定版をまとめた。同年度の9つのがん検診の受診者数は延べ1108万8093人だった。

対がん協会報3月号で紹介した「概要」よりも2800人近く増えた。一部に修正があり、再集計した。

その結果、対前年度比は27万8630人(0.02%)の減少だった。受診者の減少傾向には変わりはないものの、回復の兆しが見えたがん検診もあった。

集計で変更があったのは、子宮頸がん検診。

合計は131万3900人で、前年度より減った受診者数は5万5848人と、減少幅は「概要」よりもやや縮小した。

それに伴い、「概要」では1.42となっていた要精検率は、「確定」では1.41だった。がん発見率など、その他の項目には変更がなかった。

2012年度のがん検診実施状況で、個別のがん検診の受診者数の変化をみると、最も大きく減少したのは甲状腺がん検診。減少者数は11万852人(対前年度比61%の減少)で、27万8630人という減少者数全体の約4割を占めた。

甲状腺がん検診を除くと、減少者数は約16万8千人。今回の集計だけで即断はできないが、国が指針を設けて受診を勧める5つのがん検診に関しては減少幅が縮小する傾向にあった。

その5つをみると、前年度に最も大きく減った肺がん検診(減少者数約22万人)は減少幅が9万2千人と半分以下になった。

子宮頸がん検診も肺がん検診ほどではないが、約8万人から約6万人へと減少幅がやや縮小した。

前年度に約7万2千人減った胃がん検診では増加に転じ、2万2千人増えていた。

回復の兆しが見えたこの3つのがん検診に対し、前年度に1万3千人の減少だった乳がん検診は今回の集計では約6万人の減と、減少幅が大きく広がった。

大腸がん検診も増加しているとはいえ、その数は約1万8千人。前年度には10万5千人増えていたことを考えると、単に「増加している」ということに慢心するのは禁物だ。

対がん協会では作業チームを設けて、5つのがん検診を中心に、支部の協力を得ながら実情を詳しく調査し、がん検診受診者拡大策を探ることを検討する。

9つのがん検診の受診者と前年度との比較(確定)

検診	2012年度実施		前年度対比		発見がん数
	団体数	受診者数	受診者	ポイント	
胃	42	2,381,804	22,169	0.01	3,201
子宮頸	42	1,313,900	▼55,848	▼0.04	337
子宮体	17	22,882	▼5,435	▼0.19	42
乳房	42	1,202,730	▼59,152	▼0.05	2,652
肺	42	3,063,769	▼91,993	▼0.03	1,512
大腸	42	2,367,015	18,450	0.01	3,707
甲状腺	7	70,968	▼110,852	▼0.61	7
前立腺	36	381,213	▼284	0.00	1,852
肝胆膵腎	22	283,812	4,315	0.02	138
計	—	11,088,093	▼278,630	▼0.02	13,448

※2012年度がん検診の実施状況より  
発見がん数には滋賀と京都は含まれていない

# 2012年度 がん検診の実施状況から ◆胃がん

支部	受診者数 (A)	要精検者数 (B)	精検 受診者数 (C)	精密検査結果 (件)			未受診	未把握	各指標 (率)			
				がん (D)	がん疑い	がん以外 の疾患			要精検率 B/A×100	精検受診率 C/B×100	がん発見率 D/A×100	陽性反応 の中度 D/B×100
北海道	122,053	7,966	7,000	199	0	5,914	966	0	6.53	87.87	0.16	2.50
青森	80,752	8,552	6,975	94	25	6,816	0	1,577	10.59	81.56	0.12	1.10
岩手	105,552	6,546	5,736	148	2	4,266	810	0	6.20	87.63	0.14	2.26
宮城	180,932	12,088	11,254	308	0	9,068	528	306	6.68	93.10	0.17	2.55
秋田	45,600	3,701	2,744	46	6	2,677	957	15	8.12	74.14	0.10	1.24
山形	103,460	9,167	7,497	97	20	5,913	1,670	0	8.86	81.78	0.09	1.06
福島	97,422	7,776	6,184	118	6	4,726	89	1,627	7.98	79.53	0.12	1.52
茨城	91,439	9,632	7,811	118	22	6,964	1,821	0	10.53	81.09	0.13	1.23
栃木	65,974	4,807	3,824	70	15	3,359	983	22	7.29	79.55	0.11	1.46
群馬	37,315	4,017	3,586	72	5	2,982	0	431	10.77	89.27	0.19	1.79
埼玉	44,477	3,350	2,775	63	5	2,101	575	606	7.53	82.84	0.14	1.88
千葉	150,514	11,419	8,792	178	17	7,471	325	2,302	7.59	76.99	0.12	1.56
新潟	156,307	11,777	10,645	602	15	6,812	1,132	59	7.53	90.39	0.39	5.11
山梨	14,619	1,340	895	7	0	888	445	0	9.17	66.79	0.05	0.52
長野	65,069	6,712	4,959	48	0	3,890	1,537	0	10.32	73.88	0.07	0.72
富山	43,161	3,831	2,968	70	3	2,026	863	6	8.88	77.47	0.16	1.83
石川	29,978	4,384	3,548	49	0	2,948	836	-	14.62	80.93	0.16	1.12
福井	30,196	2,739	2,178	53	-	1,778	561	-	9.07	79.52	0.18	1.94
愛知	24,702	1,692	1,300	26	0	1,274	228	164	6.85	76.83	0.11	1.54
三重	21,696	1,593	1,148	28	0	540	0	445	7.34	72.07	0.13	1.76
滋賀	14,607	928	790	20	1	635	0	138	6.35	85.13	0.14	2.16
京都	55,131	7,371	-	-	-	-	-	-	13.37	-	-	-
兵庫	78,638	3,345	2,182	46	2	1,657	0	1,163	4.25	65.23	0.06	1.38
奈良	6,460	459	311	6	-	277	-	148	7.11	67.76	0.09	1.31
和歌山	20,032	1,670	951	11	0	726	0	719	8.34	56.95	0.05	0.66
鳥取	30,106	2,606	1,673	42	4	1,263	0	933	8.66	64.20	0.14	1.61
島根	38,097	2,676	1,662	42	5	1,310	1,014	-	7.02	62.11	0.11	1.57
岡山	30,663	2,514	1,792	31	15	1,574	0	722	8.20	71.28	0.10	1.23
広島	25,190	1,626	1,252	20	8	1,025	352	2	6.45	77.00	0.08	1.23
山口	33,780	2,477	873	9	0	756	0	1,604	7.33	35.24	0.03	0.36
徳島	27,258	1,927	1,460	27	5	1,428	-	467	7.07	75.77	0.10	1.40
香川	29,159	2,032	1,923	60	4	365	79	30	6.97	94.64	0.21	2.95
愛媛	47,817	2,850	2,320	50	7	1,895	0	530	5.96	81.40	0.10	1.75
高知	64,272	2,530	2,084	61	4	184	0	456	3.94	82.37	0.09	2.41
福岡	79,691	5,402	4,154	101	2	3,192	0	1,248	6.78	76.90	0.13	1.87
佐賀	26,595	3,507	2,936	41	8	2,214	571	0	13.19	83.72	0.15	1.17
長崎	29,146	2,232	1,916	23	8	1,469	0	316	7.66	85.84	0.08	1.03
熊本	48,450	2,329	1,815	34	0	1,478	54	460	4.81	77.93	0.07	1.46
大分	21,401	2,281	1,996	26	0	1,696	0	285	10.66	87.51	0.12	1.14
宮崎	34,720	2,366	2,083	32	2	1,338	283	21	6.81	88.04	0.09	1.35
鹿児島	96,274	9,246	8,159	116	3	7,015	341	987	9.60	88.24	0.12	1.25
沖縄	33,099	1,492	925	9	0	787	567	0	4.51	62.00	0.03	0.60
合計	2,381,804	186,955	145,076	3,201	219	114,697	17,587	17,789	7.85	80.77	0.14	1.78

精検受診率、がん発見率、陽性反応の中度は京都を除いて計算

# 2012年度 がん検診の実施状況から ◆大腸がん

支部	受診者数 (A)	要精検者数 (B)	精検 受診者数 (C)	精密検査結果 (件)			未受診	未把握	各指標 (率)			
				がん (D)	がん疑い	がん以外 の疾患			要精検率 B/A×100	精検受診率 C/B×100	がん発見率 D/A×100	陽性反応 の 中度 D/B×100
北海道	126,494	8,898	7,612	379	2	4,948	1,286	0	7.03	85.55	0.30	4.26
青森	93,583	2,702	2,060	101	21	1,923	0	642	2.89	76.24	0.11	3.74
岩手	106,571	5,649	4,680	234	0	2,967	969	0	5.30	82.85	0.22	4.14
宮城	60,453	3,093	2,800	139	0	1,750	214	79	5.12	90.53	0.23	4.49
秋田	64,574	3,915	2,878	110	6	2,762	1,037	0	6.06	73.51	0.17	2.81
山形	119,663	6,419	4,666	142	10	2,641	1,753	0	5.36	72.69	0.12	2.21
福島	114,804	7,606	5,188	163	5	3,048	188	2,230	6.63	68.21	0.14	2.14
茨城	152,311	10,465	7,351	262	60	5,304	3,114	0	6.87	70.24	0.17	2.50
栃木	85,964	3,326	2,216	105	28	1,465	1,110	29	3.87	66.63	0.12	3.16
群馬	32,822	1,384	841	49	0	507	0	543	4.22	60.77	0.15	3.54
埼玉	19,961	2,371	1,593	48	3	986	778	556	11.88	67.19	0.24	2.02
千葉	114,007	7,461	4,479	145	10	2,698	546	2,436	6.54	60.03	0.13	1.94
新潟	123,444	6,953	5,348	309	31	3,558	1,605	148	5.63	76.92	0.25	4.44
山梨	13,558	678	382	13	0	369	296	0	5.00	56.34	0.10	1.92
長野	105,460	6,166	3,762	132	0	2,318	2,404	0	5.85	61.01	0.13	2.14
富山	34,510	2,098	1,434	79	0	971	664	0	6.08	68.35	0.23	3.77
石川	25,726	1,573	1,140	53	0	808	433	-	6.11	72.47	0.21	3.37
福井	52,428	2,588	1,905	125	-	1,332	683	-	4.94	73.61	0.24	4.83
愛知	16,908	1,587	959	28	1	556	-	-	9.39	60.43	0.17	1.76
三重	28,489	1,452	970	33	-	520	-	482	5.10	66.80	0.12	2.27
滋賀	14,186	842	-	-	-	-	-	842	5.94	-	-	-
京都	74,283	5,325	-	-	-	-	-	-	7.17	-	-	-
兵庫	77,254	2,790	1,192	58	0	767	0	1,598	3.61	42.72	0.08	2.08
奈良	1,318	70	-	-	-	-	-	70	5.31	-	-	-
和歌山	20,687	1,283	539	29	0	510	744	744	6.20	42.01	0.14	2.26
鳥取	38,280	2,438	1,536	57	1	904	0	1,270	6.37	63.00	0.15	2.34
島根	43,219	1,877	1,200	70	7	638	677	-	4.34	63.93	0.16	3.73
岡山	34,000	2,881	1,794	33	5	1,305	-	1,087	8.47	62.27	0.10	1.15
広島	31,477	1,893	1,324	69	0	870	569	0	6.01	69.94	0.22	3.65
山口	44,519	2,208	657	13	0	430	-	1,551	4.96	29.76	0.03	0.59
徳島	23,992	1,756	1,467	38	5	1,010	289	414	7.32	83.54	0.16	2.16
香川	18,883	1,138	966	26	0	707	157	15	6.03	84.89	0.14	2.28
愛媛	64,321	3,500	2,694	91	7	1,715	0	806	5.44	76.97	0.14	2.60
高知	64,146	2,270	1,598	81	7	1,030	0	672	3.54	70.40	0.13	3.57
福岡	65,271	3,461	2,315	108	2	1,605	24	1,122	5.30	66.89	0.17	3.12
佐賀	25,548	1,847	1,386	52	3	941	461	9	7.23	75.04	0.20	2.82
長崎	36,917	2,514	1,924	57	19	1,291	0	590	6.81	76.53	0.15	2.27
熊本	51,292	3,387	2,351	52	0	1,674	135	901	6.60	69.41	0.10	1.54
大分	22,869	1,493	1,177	51	0	860	0	316	6.53	78.83	0.22	3.42
宮崎	22,871	1,613	1,199	33	1	722	414	16	7.05	74.33	0.14	2.05
鹿児島	57,742	4,236	3,300	94	2	2,424	310	626	7.34	77.90	0.16	2.22
沖縄	42,210	2,373	1,277	46	1	1,099	1,095	1	5.62	53.81	0.11	1.94
合計	2,367,015	137,579	92,160	3,707	237	61,933	21,955	19,795	5.81	70.17	0.16	2.82

精検受診率、がん発見率、陽性反応の中度は滋賀・京都・奈良を除いて計算



# リレー・フォー・ライフ・ジャパン2014に向け 各ブロックでキックオフ会議

## 「対話」を重視 原点に立ち返って50カ所開催めざす

リレー・フォー・ライフ・ジャパン2014の開幕が迫った。近畿など各ブロックでキックオフ会議が開かれ、開催に向けて情報交換が進む。今年度の目標は50カ所。その節目をめざすにあたって、リレー・フォー・ライフの原点に立ち返るとともに、日本対がん協会内はもとより、各地の実行委員会、支援者たちとの対話の大切さを再確認する。

3月16日午後、京都市の五条大橋近くにある「ひと・まち交流会館 京都」に、関西・北陸8地域の実行委員ら約30人が集まった。近畿地区のキックオフ会議。地元・京都、泉州(大阪)、芦屋(兵庫)、福井、奈良に加え、初開催を予定する滋賀、神戸、和歌山のメンバーも参加した。

キックオフ会議は、「サバイバーを祝福し、亡くなった方々を偲び、そしてがんと闘う」リレー・フォー・ライフの使命を改めて認識し、イベント開催の基本方針である「楽しむ」「啓発」「寄付」を再確認することを目的の一つに掲げる。

同時に、ブロック内の各実行委員会でどのような活動をしているかを報告し、ディスカッションしながら互いに協力する意識を育む。実行委のこれまでの成功例や失敗例を学ぶことで、今後の実行委の組織づくりや、イベント開催に役立てる。

会議では、参加者たちが自分たちの実行委員会を紹介し、今年度のイベントのに向けた準備状況を報告。日本対がん協会側から、リレーの趣旨などを改めて説明した。その後、各実行委の抱える課題などをめぐってディスカッション、イベントの成功に向け、互いにどんな協力ができるかを話し合った。

同22日には福岡市で九州地区のキックオフ会議が開かれた。参加したのは地元・福岡、熊本、宮崎、大分、鹿児島島の5地域の実行委員ら約20人。スライドを使ってそれぞれの活動を報告。日本対がん協会の担当者を交えてディスカッションした。



沖縄でも今年度の開催に向けた検討が始まった。まだ日程などは具体化していないものの、これまでの実行委員を中心に、規模の大小にかかわらず、地域に根差した活動を行いたい、という。

「リレー・フォー・ライフinうちな〜」と題し、沖縄の伝統・風土いっぱいのリレーを開いてきたが、4回目(前回)を2013年3月末に開催したこともあり、2013年度は開催しなかった。4回目は宜野座村を挙げてのイベントになり、日本対がん協会の沖縄県支部も肺がんのヘリカルCT検診車を派遣し、希望者に検診を行った。この時に寄せられた寄付の総額は179万1187円で、日本対がん協会には91万7730円が、アメリカ対がん協会には1万7912円が寄付された。

### 2014年度 リレー・フォー・ライフ・ジャパン 開催予定

2014年3月31日現在

#### ★初開催

【5月】			
10(土)~11(日)	鹿児島	3	ウォーターフロントパーク
17(土)~18(日)	茨城(つくば)	5	研究学園駅前公園
	熊本	4	白川公園
24(土)~25(日)	★和歌山	初	和歌山公園 砂の丸広場
【6月】			
7(土)~8(日)	★神戸	初	みなとのもり公園
	★町田(東京)	初	鶴間公園
14(土)~15(日)	八戸(青森)	2	八戸市内(予定)
【8月】			
上旬予定	信州まつもと(長野)	3	やまびこドーム(予定)
2(土)~3(日)	福島	5	あづま総合体育館(予定)
【9月】			
6(土)~7(日)	ながいずみ(静岡)	6	長泉町桃沢野外活動センター
	芦屋(兵庫)	8	芦屋市内
13(土)~14(日)	川越(埼玉)	6	川越水上公園 芝生広場
	福岡	6	海ノ中道海浜公園
14(日)~15(月)	さいたま	6	
	広島	7	しまなみ交流会館・ベルポール広場(駅前港湾緑地)
20(土)~21(日)	いわて	3	
	ちば(八千代市)	5	八千代市総合グラウンド
	大阪貝塚	3	市民の森(シェルシアター)
27(土)~28(日)	東京上野	2	上野恩賜公園
	静岡	2	静岡県立大学 芝生緑地
	岡崎(愛知)	5	暮らしの杜(予定)
	京都	4	京都府立医科大学花園学舎
	宮崎・ひゅうが	3	お倉ヶ浜総合公園
【10月】			
4(土)~5(日)	とくしま	3	東新町商店街
	新横浜	5	日産スタジアム 小机フィールド
11(土)~12(日)	小松島(徳島)	7	しおかぜ公園(予定)
	高知	7	城西公園(予定)
	ぐんま	2	
	大分	7	大分スポーツ公園 大芝生広場
12(日)~13(月)	大阪旭	2	旭区民センター屋内(予定)
25(土)~26(日)	★滋賀	初	休暇村近江八幡



今年度のリレーに向けてキックオフ会議に参加した実行委員らは記念写真を撮り、リレーの成功を誓った=上が近畿地区キックオフ会議、下が九州地区キックオフ会議